



だより

平成16年10月発行

第1号

彩の国バリアフリー協会

〒336-0031

さいたま市南區鹿手袋4-1-7

埼玉県産連会館

TEL 048-864-9313

FAX 048-864-9381

彩の国バリアフリー協会発足一年、総会終了

高齢者や障害者をふくめ誰もが快適に暮らせるまちづくり。その実現に役立つ人材の育成を目指す「彩の国バリアフリー協会」は、会長一名、理事五名、監事二名の役員、及び会員約百名の陣容で昨年九月に発足しました。

そして、本年四月二十五日に開かれた第一回通常総会において新役員及び活動計画も承認されて二年目のスタートをきることができました。

また、四部会においても会員に広く参加を募り、多数の参加を得て、その歩みもより力強い足取りとなつてきております。

資格制度等について毎月開催の委員会で討議され、理事も八名と強化され三月には総務部会、広報部会、企画部会、研究部会の四部会も立ち上げられました。

また、四部会においても会員に広く参加を募り、多数の参加を得て、その歩みもより力強い足取りとなつてきております。総務部会は、法人化、資格化の具体的な手法の調査及びそのメリット・デメリットなどを慎重に検討しています。広報部会はこの広報誌を第一号として発行し、

よりタイムリーな情報の提供のためにホームページの開設を準備中です。企画部会、研究部会、四部会が開かれ、県内各行政機関における住宅改修に関する取組及び補助制度の調査、住宅改修事例の最新の技術や知識の調査、先進事例の研究及び視察、福祉・医療関係者並びに団体との交流会の企画、会員活動のサポート、住まいのバ

リアフリーについての悩みの相談窓口の設置など、多くの起案が討議され具体化もされようとしています。年内には会員、賛助会員、一般の方々を対象に施設の見学会が実現する予定です。

このような各部会の活動を通して関係諸団体とのネットワーク活動の展開や住まいのバリアフリーだけでなく、介護をする人や同居人の心身のバリアフリーなど幅広いバリアフリーにも取り組んでいきたいと考えております。

また総会後は懇親会が開かれてほとんどの会員が参加し、お互いの交流を深めました。



役員紹介

- | | | |
|-----|--------|-----------------|
| 会長 | 栗田 政明 | (企画部長) |
| 副会長 | 武田 敏彦 | (総務副部長) |
| 監事 | 山崎 由美子 | (総務副部長) |
| | 佐藤 啓智 | |
| 理事 | 水野 洋 | (広報部長) |
| | 大野 和昭 | (広報副部長) |
| | 金森 恵美子 | (広報副部長) |
| | 稲垣 雄二 | (総務部長) |
| | 渡辺 南美 | (企画副部長) |
| | 水村 英夫 | (研究部長) |
| | 柴原 美苗 | (研究副部長) |
| | 宮原 克平 | |
| | 高橋 儀平 | (東洋大学教授) |
| 顧問 | 荒井 正幸 | (埼玉県建築士事務所協会会長) |



「さらなる飛躍を目指して」

会長 栗田 政明



当協会は埼玉県と(社)埼玉県建築士事務所協会の共催による彩の国バリアフリー建築カレッジの卒業生を中心に結成された団体です。平成十一年十月五日に障害者交流センターで第一回のカレッジが開催されて以来、平成十五年度の終了までに六回目を教え、延べ約四百名の卒業生を送り出しています。この間いろいろな動きがありました。が、受講終了の皆様が、「高齢者や障害者も含め、誰もが快適に暮らせる

まちづくりの実現に役立つ人材」として認知され、実務を通して社会に貢献することを目指して設立されました。以来、一年余りが過ぎ、組織としての輪郭が少しずつ整ってきた感じがいたします。また女性会員の方々に積極的に参加をいただき、より包容力のある事業と安心できる活動を目指して、総務部、企画部、研究部、広報部の四つの部会を発足いたしました。

さらに、彩の国バリアフリーカレッジとの協力関係を強くしての会員増強や、福祉関係団体との交流を通しての新しい事業創設等に取り組んでいきたいとも考えています。ともあれ、まだ発足して一年に満たない組織であります。未熟な点も多々あると思いますが、会員の皆様方のご協力とご理解を得て、当協会の活動が推進されまことを御願いといたしまして挨拶とさせていただきます。



「前進の先にあるもの」



総務部長
稲垣雄二

バリアフリーという言葉
を聞いてからどれだけ月日
が経ったでしょう。法的整備
を始めとして、ずいぶん周り
の環境も変化しました。以前
は車椅子と視覚障害しか頭
にありませんでしたが、多様
な障害があることを知り、施
設はどうあるべきか、最小公
倍数を満足させるのか、最大
公約数を満足させるのか、変
化するバリアにはどう対応
するのかなど検討すべきこ
とが次々生まれます。この協
会でいろいろな立場の方と
知り合って勉強したいと思
っています。

「有用な情報の提供を」



企画部長
武田敏彦

彩の国バリアフリー協会
には、医療関係の方、福祉に
携わる方、建築を設計する方、
建築を施工する方等々幅広
い職種の方が参加しており
ます。その中で会員の皆様に
共通することはバリアのな
い社会や建物の実現につい
て高い意識を持ち、日々の仕
事やプライベートな活動を
とおして、その実現のために
何かの行動をしているとい
うことです。

「福祉施設の視察を予定」



研究部長
水村英夫

初年度の研究部の活動は、
「福祉の先進事例を研究し会
員の活動をサポート」、バリ
アフリー相談」の二点が総会
にて承認されました。

その実行のため企画部会
と合同で、数回の部会を開催
しました。両部員とも、忙し
い中、また遠路参加いただい
た方が多く、活発な議論がで
きたのは大変有意義なこと
だったと思います。

ひとつ目の先進事例の研
究では今年度福祉施設の視
察を予定しています。候補施
設も絞り込んでいますので、
決まりましたらお誘いあわ
せてご参加ください。

ふたつ目のバリアフリー
相談は企画部会と合同
で計画しています。いきなり
一般市民相手の相談会は難
しい面が多く、まずは福祉関
係の団体との交流の中で具
体化していければと考え、現
在その接触を模索していま
す。どうか積極的に参加して
いただき、ご自身の仕事にも
役立てていただければと思
います。

「常に各部会員の隣に」



広報部長
大野和昭

広報部は縁の下の力持ち
だけであってほならないと
思います。特に「彩の国バリ
アフリー協会」の立ち上げ時
期においては、各部の方向性
そして今すべき事を十分に
把握し、常に各部の隣に
いることが大切だと考えます。も
ちろん会員の思いを協会に
反映すべく、活動しなければ
ならない立場でもあります
が。

とはいえ、私自身広報とい
う仕事は初体験であり、何か
ら始めればよいのか右往左
往の状態でした。しかし幸い
にもスタッフにも恵まれて
何とかスタートすることが
できました。これから広報紙
の充実、HPの開設等に努め
なければなりません。各部
の歩み並びに会員の隣に常
にいますという基本的スタンス
を大事に活動していきたい
と思います。今後ともご支
援宜しくお願いいたします。



賛助会員募集中！

当協会では只今賛助会員を募集しております。
会員の皆様のお知り合いの中で、当協会に賛助
いただける方をご存知の方があれば事務局まで
ご連絡ください。賛助会員の方の年会費は一口
五千円で二口以上となっております。

今後とも当協会の

活動へのご支援のほど

宜しく御願いたします。

彩の国バリアフリー協会事務局
TEL 048-864-9313



編集後記

彩の国バリアフリー協会の機関紙EQだよりも
が無事に発行できたことに安堵するとともに、
原稿を下された皆様に感謝しています。
EQとは Emotional intelligence Quotient
の略で、情動指数もしくは感情指数といわれ
るもので、これは知能指数(IQ)になぞらえた
言葉です。自己や他人ないし種々の状況に対
し、適正な対応が出来る能力の高さを指数で
表すという考え方です。当バリアフリー協会
が、思いやりのある人間味にあふれた当事者
にとって気兼ねなく安心して利用できるよう
な体制づくりを心がけていきたいと思い、命
名いたしました。年2回の発行をめざして広
報部一同、頑張りますので今後ともご協力の
ほどよろしく御願いたします。(金森)

